

第4節 光構内の立会調査

教育学部附属光中学校グラウンド防球ネット設置に伴う立会調査

調査地区 光構内

調査期間 昭和63年3月28日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約2m²

調査結果 工事地域は光構内の東端部、御手洗湾に接する附属中学校グラウンドの北縁部付近にあたる。調査の対象は総延長距離約120mの防球ネット設置に伴い、約10m間隔で埋設される15本の支柱部分で、掘削の規模は現地表から約3mである。工事は機械を使用して掘削し、土層の堆積状態を観察することが不可能であったため、館員による現地での立会調査にかえて、光附属学校系の長谷知之氏に掘削状況の写真撮影、出土遺物採取を依頼した。その結果、出土地点は明かでないが、黄褐色ないし黒褐色の砂層から土師器、歴史時代の土師器坏、陶器甕、瓦質土器鉢、瓦数点が出土した。

出土遺物 (Fig. 65, PL. 32(3))

1は土師器の坏。糸切り底で、内面の調整は粗雑。2は陶器の甕。口縁部は内側に強く屈曲し、外面には浅いヘラ描きの1条の沈線が巡る。瓦は丸瓦で凸面格子タタキののちナデ、凹面には布目痕が残る。1・2とも胎土、焼成良好。1は外面黒褐色 (Hue 10YR 3/2)、内面にぶい褐色 (Hue 7.5YR 6/3)。2は内外面橙色 (Hue 5 YR 7/6)。瓦は内外面暗灰色 (Hue N 3/0)。

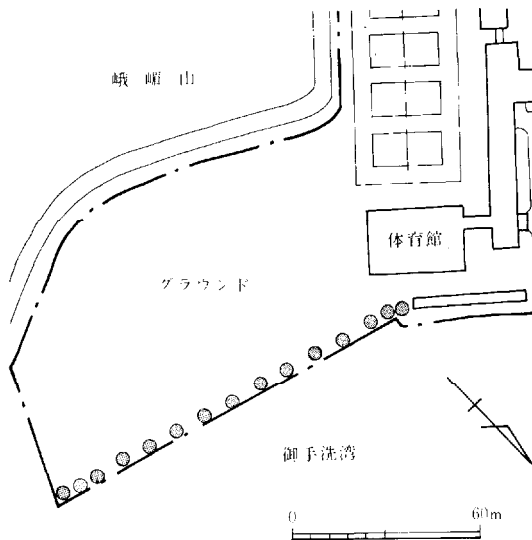


Fig. 64 調査区位置図

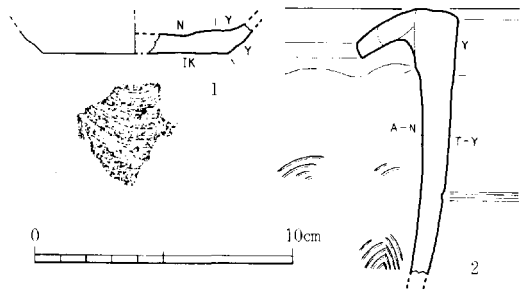


Fig. 65 出土遺物実測図

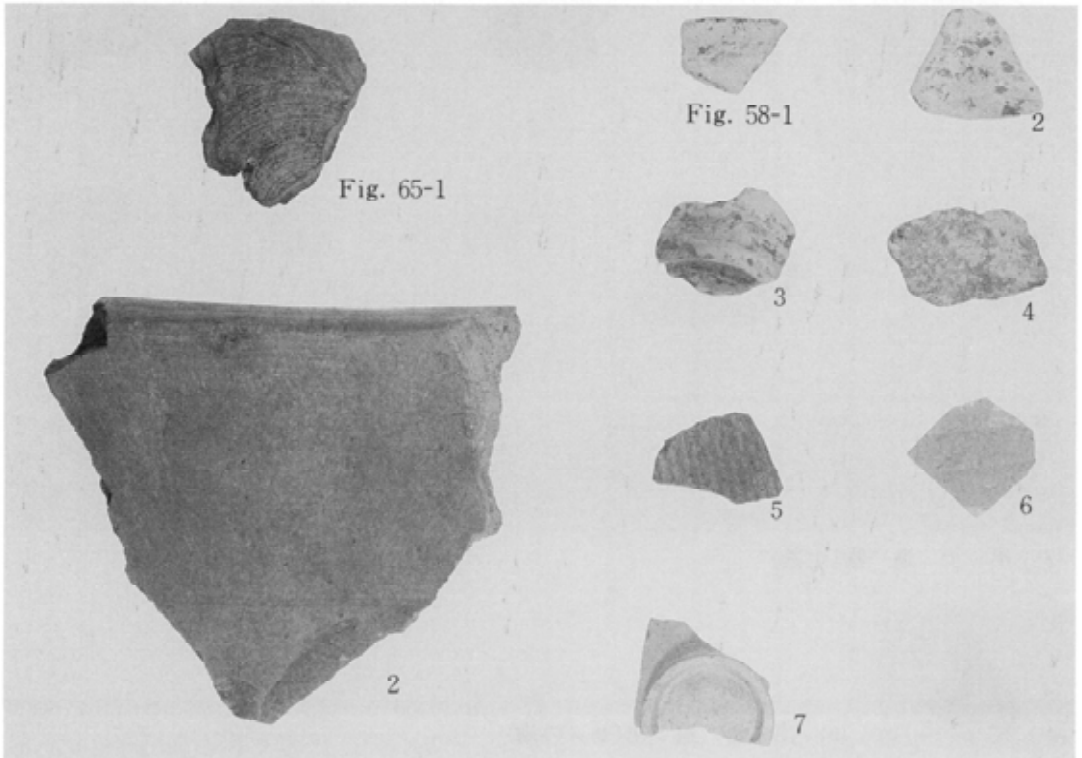
昭和62年度山口大学構内の立会調査



(1) 農学部附属農場E7圃場A地点土層断面
(東から)



(2) 農学部附属農場E6圃場B地点土層断面
(西から)



(3) 出土遺物